

274 号

5 月例会のお知らせ

日 時 : 5 月 27 日 (土) 越前市文化センター前
8 時 30 分配車、45 分出發

内 容 : 湖南三山めぐりバス日帰り旅行

湖南市にある善水寺、長寿寺、常楽寺はいずれも古いお寺で、鎌倉初期の国宝に指定された本堂や三重塔が残る天台宗の古刹です。

会 費 : 5,000 円 (拝観料、飲食代、雑費などを含む。バス代は会からの補助になります。)

■染井吉野は咲き終わりましたが、まだ山にはヤマザクラが残り、いかにも「山笑う」季節で、春の明るさが感じられます。そうこう言っているうちに、5月5日は二十四節気の「立夏」。その15日後には「小満」がやってきます。「小満」については江戸時代に出版された『暦便覧』に「万物盈満（「満ち溢れる」の意味）すれば草木枝葉繁る」と、書いてあります。考えますと今は、一年中で一番生き生きとした季節かもしれませぬ。さて今回の旅行は、有名な湖東三山ではなく、あまり知られていない湖南三山めぐりをすることにしました。いずれのお寺も本堂等が国宝に指定され、仏像も国の重要文化財になっていますし、滋賀県屈指の紅葉の名所です。仙台文学館の館長で、歌人の小池光氏は、あるエッセイに「満開の桜よりも、全山の紅葉よりも、五月の青葉若葉に心ときめく。一年十二ヶ月のうちで、五月はもっとも鮮明な鋭い輪郭をもって、生きるもののいのちを覚醒させてくれる」と、書いています。また徒然草 139 段には「卯月（旧暦）ばかりの若楓、すべて、よろずの花、紅葉にもまさりてめでたきものなり。」と、その若葉もみじの美しさを讃えています。

■湖南市は、平成 16 年に石部町と、甲西町が合併して発足した旧甲賀郡で、本当は甲賀市と、名付けるのが、適当だったのでしょうが、すで

に甲賀市が存在したことから、湖南市となったようです。実は、湖南市は琵琶湖には接していません。また、合併後、湖東三山に習って、湖南三山と PR を始めたようです。

■当日の大まかな予定

越前市文化センター 8 時 45 分出發→多賀 SA 休憩→善水寺 11 時→昼食 12 時 15 分→長楽寺 13 時 30 分→常楽寺 14 時 45 分→賤ヶ岳 SA 休憩→越前市文化センター到着 18 時

■湖東三山といい、湖南三山いい、どうして琵琶湖の周辺に、こんなに天台宗の古いお寺が多いのでしょうか。平安時代後期の歌謡集『梁塵秘抄』に、「近江の湖は海ならず、天台薬師の池ぞかし」という記述があります。どうも平安時代の人、琵琶湖を天台宗の根本如来である薬師如来浄土と、考えていたようです。そして、琵琶湖と薬師如来の関係を体系づけたのが、「国が栄える為には豊かな実りが必要、その実りをもたらすのが水」と考えた最澄でしょう。その結果、琵琶湖に注ぐ水の源である山々に次々と山寺が建立されて、薬師如来が安置されたと、考えられます。薬師如来の本来の名前は、「薬師瑠璃光如来」ですが、この「瑠璃光」は「水の光」という意味です。